

令和5年度 第2回赤磐市総合教育会議議事録

- | | | | |
|---|------|----------------|---------------|
| 1 | 開会日時 | 令和5年8月17日(木) | 11時00分～12時00分 |
| 2 | 会議場所 | 赤磐市立中央図書館 | 多目的ホール |
| 3 | 構成員 | 市長 | 友 實 武 則 |
| | | 教育長 | 坪 井 秀 樹 |
| | | 教育長 | 大 崎 陽 二 |
| | | 職務代理者 | |
| | | 教育委員 | 山 本 賢 昌 |
| | | 教育委員 | 平 松 由 香 |
| | | 教育委員 | 遠 藤 益 恵 |
| 4 | 関係者 | 保健福祉部長 | 遠 藤 健 一 |
| | | 保健福祉部参与兼社会福祉課長 | 原 田 光 治 |
| | | 子育て支援課長 | 和 田 美 紀 子 |
| | | 教育次長 | 入 矢 五 和 夫 |
| | | 教育総務課長 | 西 崎 雅 彦 |
| | | 学校教育課長 | 森 本 治 |
| 5 | 事務局 | 総合政策部長 | 倉 本 貴 博 |
| | | 秘書広報課長 | 小 引 千 賀 |
| | | 秘書広報課 主幹 | 藤 井 靖 子 |

○事務局：定刻となりましたので、これより令和5年度第2回赤磐市総合教育会議を開会します。皆様どうぞよろしくお願いいたします。なお、恐れ入りますが、本日総合政策部長の倉本が所用のため遅れての出席となります。それでは、市長よりごあいさつをお願いいたします。

○友實市長：はい。失礼いたします。皆さんおはようございます。昨日まで台風7号ということで、赤磐市内も雨あるいは強風で、皆さんの身の回りでも様々不都合があったかと思います。そういう中で、本日、この総合教育会議でございますけれども、皆さん方にご出席をいただいております。深く感謝申し上げる次第でございます。ありがとうございます。今日は次第に従っての議論をさせていただきます。具体的には、赤坂地域の教育懇談会を開催いたしまして、その結果を報告ということでございます。それから、赤磐市が進めております、支援の必要な子どもたちに対する拠点として、通級指導教室、これを新しく整備しようということで進めております。この概要についての説明。それから、春15（いちご）の会が8月26日にありまして、この会についてのご案内をさせていただきたいと思います。また、その他の項も設けておりまして、委員の皆さんから、今日の議題以外でも何かありましたらご発言をいただけたらと思っております。今日もよろしく願い申し上げます。ありがとうございます。

○事務局：ありがとうございます。それでは以降の進行につきまして、引き続き市長をお願いいたします。

○友實市長：はい。それでは、議事の進行役を務めさせていただきます。それでは、次第に従っての進行をさせていただきますので、各種事業の進捗状況ということで、教育総務課からお願いしたいと思います。

○西崎教育総務課長：教育総務課、西崎です。私からは、赤坂地域の魅力ある学校づくりについて、赤坂地域教育懇談会の開催結果についてご報告をさせていただきます。資料は3ページから5ページになります。6月に開催をいたしました今年度第1回の総合教育会議においてご説明させていただきました赤坂地域の魅力ある学校づくりに伴い、各小学校の保護者及び地域へのご説明として、7月から8月にかけて、教育懇談会を開催いたしました。7月の24日には、石相小学校で保護者を中心に23名ご出席をいただき、26日には、軽部小学校で22名のご出席、28日には笹岡小学校で12名のご出席、8月10日には赤坂健康管理センターにおきまして、地域住民の方々41名のご出席をいただきました。懇談会では、事務局から、小学校の現状、魅力ある学校づくりアンケート結果、統合方針、今後のスケジュールについてご説明をさせていただいたのち、資料のとおり、ご出席いただきました皆様からご質問やご意見を聞かせていただきました。ご質問の中には、どこの小学校へ統合されるのか、通学方法や制服、体操服がどうなるのか、統合後の教育課程について、廃校となる施設の利活用など、統合に伴うご質問、また、一方では、小規模校ならではの良さなどのご意見をいただいております。現在、設置に向け準備を進めております統合準備委員会等におきまして、この度の教育懇談会でいただいた意見、不安と思われることなど、しっかりと丁寧に関わり合いをまいりたいと考えております。以上、簡単ではございますが、赤坂地域教育懇談会の開催結果報告とさせていただきます。

○友實市長：はい。説明がありましたが、ご意見あるいはご質問があればお願いいたします。い

かがででしょうか。

○山本委員：教育委員の山本です。よろしく申し上げます。保護者対象の懇談会、地域の方対象の懇談会が4つ開かれておりますけども、いろいろ、保護者の方とか地域の方から、いろんな意見や質問が出ていると思います。質問にもあるんですけど、本日出た意見は参加できていない人へ周知はされないのか、というのがあってですね。ぜひこの、質問・意見の中で、それに対して、教育委員会がどういうコメントしたとか、どういう回答したとか、まとめてホームページにでも上げてもらえば、一般の人に広く周知できていいのかなと思いますので、それをよろしくお願ひしたいと思います。

○友實市長：はい。その点いかがでしょう。

○西崎教育総務課長：教育総務課西崎です。はい。ありがとうございます。会場の中にもそういったご意見をいただきまして、こういった結果につきまして、ホームページ等でお知らせをさせていただきたいと考えております。

○山本委員：よろしくお願ひします。

○大崎委員：大崎です。保護者の方も地域の方も、ここに書いてあることを見ると、同じようなことを書いてくださっていると思って見させていただいたんですけども、実際説明会に行かれて、保護者の方とその地域の方の、雰囲気ですか、ちょっとこの辺は微妙に違うとかいうのがあったら教えていただきたいと思うんですけど。以前、私が軽部小学校へ校長で行った年に最初の統合の話が出ていまして、若い人たちは、まあ賛成。それから、やっぱり地域の人たちは学校がなくなったらやっぱり寂しいので、できたら今のままにしていきたいというような話だったんですけども。もし何か微妙な違いがありましたら、教えていただけたらと思います。

○西崎教育総務課長：はい、教育総務課西崎です。先ほどご説明させていただきましたとおり、統合に向けて、方針説明をさせていただきました。そのあと、皆様の方から、統合に向けての、学校がどこになるのか、そういったご意見等がございました。一方で、やはり小規模校のよさ、という形でのご意見をいただいておりますので、そういった部分につきましては、少し違いがあるのかなというふうに感じております。以上です。

○友實市長：よろしいでしょうか。

○平松委員：平松です。統合になりますと、大きい学校の子ども達や保護者の方たちは、そんなに不安とかはないと思うんですけど、小さい規模になればなるほど、不安とかが大きく出ると思うんです。その保護者の方や子どもたち、地域の方々にとどのように説明していくのかとか、安心感を持ってもらうのかということがとても大事になると思うので、この意見をそれぞれ見ましてもやっぱり大きい学校のところの意見が少なく、小さくなればなるほどいろんな不安材料が出ていると思いますので、そこをどのように丁寧に、進めていくかというのがとても大事だと思うので、そのへんはいかがでしょう。

○友實市長：はい、お願ひします。

○西崎教育総務課長：はい、教育総務課の西崎です。これから設置をいたします統合準備委員会、そういった中で、より具体的な協議を進めていく予定でございます。当然そのほかにもですね、丁寧な協議というものが必要かと考えておりますので、いろいろな場面でいろいろな方々と協議を重ねていきたいと考えております。以上です。

○友實市長：よろしいですか。

○平松委員：はい、よろしく申し上げます。

○友實市長：はい、どうぞ。

○遠藤委員：教育委員の遠藤です。私事ではありますが、実は私の2人目の子どもが、ちょうど幼稚園のときに、閉園を経験しております。それで、その時は若草幼稚園に下の子が通っておりまして、若草幼稚園が1年で閉園し、そのあと、大きい幼稚園に移るようになりました。双葉幼稚園と若草幼稚園が統合し、山陽西幼稚園という新しい幼稚園ができてそこに入るようになったわけなんですけど、その時に非常に印象深かったことが、2点あります。まず一つ目は、教育委員会や、市の方々が非常にこの保護者の意見に寄り添って話を聞いてくださったということ、非常に印象深く思っております。例えば閉園式のあり方ですとか、新しい園名をどうするか、また記念品ですとか、閉園を記念する制作物をどういったものにするのかというような細かいことまで、非常に意見を汲み取ってくださって、保護者としては非常にその時は、感謝でしかなかった思っております。また、もう1点は、実際に今子どもが通っている学校幼稚園がなくなるという非常に寂しい思いもありましたが、それ以上に、その時は実は男の子が2人、女の子が5人といった非常に少ない学年でありました。男の子が2人ということは幼稚園で2人で遊び、家に帰ってからも2人で遊ぶという、非常に狭いコミュニティの中で、1年を過ごした記憶があります。そこで一気に子どもの世界が広がるということで、幼稚園がなくなるという寂しさ以上に、新しい教育ですとか環境、友達の広がり、教育効果に対して、大きな期待を持った記憶があります。おそらく、保護者の方には、非常に不安に思っておられる方がいると思いますが、そこは保護者の方の意見に、本当に親身になって寄り添っていろいろな意見を聞かせていただき、そしてよりよい教育効果を求めて、また、教育的なメリットもたくさん提示させていただいて、よりよい方法に向けていけたらいいなと思っております。以上です。

○友實市長：遠藤委員、今の山陽西幼稚園の、通ったのちのご感想をお聞かせ願えませんか。

○遠藤委員：実はいわゆるママ友というんですか、保護者のコミュニティも一気にそれで広がりました。また子どもも、幼稚園友達といったら若草幼稚園の友達ではなくて、山陽西幼稚園の幼稚園友達を思い浮かべるほど、若草幼稚園以上に山陽西幼稚園、たった1年ですけれども、非常に愛着を持って、今も過ごしております。つまり、どういったことかと言いますと、その後の教育が非常に効果的であったということを私は一つ挙げたいと思います。幼稚園がコミュニティが大きくなることによって、教育効果が非常に大きかったことにより、今も子どもは山陽西幼稚園を愛していますし、私も同じです。つまり、教育的な効果をいかに保護者の方に理解していただくか、ということが大きいのではないかなと感じています。

○友實市長：なるほど。ありがとうございます。ほかに何かありましたらどうぞ。

○山本委員：山本です。懇談会の感想で、質問なんですけど。軽部小学校の方の質問なんですけど、廃校利用の検討委員会の立ち上げについて決まっているのか、というのがあると思うんですけど。廃校の利活用の検討委員会のメンバーについてどのような想定かという質問があったり、笹岡の中の意見だと思うんですけど、赤磐市にフリースクールを作ってる人がいるが、そういった人を誘致するという、これは廃校になった後に誘致

するということだと思っておりますけど、誘致するという案はどうかみたいな質問があって、統廃合のあと、廃校になってしまうところをどういうふうに活用するかということについては、大変地域の人の関心が高いと思っております。あんまり早くどうするか決めてしまうと拙速なことになると思っておりますので、5年から10年ぐらいかけてしっかりとプランを練っていけばいいと思っておりますけど。プランを練るための委員会みたいな、協議会みたいなものを地域になるべく早く作って、みんなの意見を取り入れながら、5年後10年後を見て、やっていくのがいいんじゃないかと思っておりますので、この廃校利用についての検討会みたいなものをできるだけ早く立ち上げていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

○友實市長：事務局、どうぞ。

○西崎教育総務課長：はい。教育総務課西崎です。はい。ありがとうございます。跡地利用につきましては、先般行いましたアンケートの中でもいろいろな様々のご意見をお聞かせいただいております。先ほど言われましたように、その意見の中には、教育委員会の中で解決できる分野でない部分も含まれますので、今現時点でメンバー、こういった委員会でという構想はありませんけれども、今後そういった部分も含めて、立ち上げとか、検討とかを重ねて参りたいと考えております。

○山本委員：よろしくお願いいたします。

○友實市長：他にはいかがでしょうか。教育長よろしいでしょうか。はい。それでは、1番目の教育懇談会実施の報告については以上とさせていただきます。続きまして、2番目の通級指導教室についての説明をお願いします。

○森本学校教育課長：学校教育課森本です。それでは私の方から、赤磐市通級指導教室の充実についてということで、ご説明をさせていただきたいと思っております。資料の6ページから8ページをご覧くださいと思います。赤磐市の通級指導教室について、資料にもありますとおり、平成19年度から、言語障害の児童を対象とした通級教室を山陽北小学校の方に開設し指導を続けてまいりました。で、今年令和5年の4月から新たに山陽西小学校に自閉症の通級指導教室を開設して、通級指導教室の充実を図っているところでございます。3番のグラフにありますとおり、現在山陽北小学校の言語の通級教室に42名、それから山陽西小学校の自閉症の通級教室に17名が通級しているという現状でございます。赤磐市教委としましても、通級指導教室の指導により、障害による困難さを持ちながらも、通常学級で過ごしている子どもたちの生活や学びを支えて、自立と社会参加に向かう力を育むためにも、さらなる充実を図りたいというふうに考えております。そこで、具体的な方策としまして、山陽北小学校と隣接する場所に旧桜が丘給食センターがありました、その跡地に、赤磐市通級指導教室、今日の資料の頭にもありますけども、仮称ということで、インクルーシブ教育支援センター、こちらを新たに建設しまして、令和8年度4月の事業開始に向けて検討を進めているというところでございます。この施設で具体的な内容としまして、3点あります。1点目が、多様な障害種への対応でございます。現在言語障害と自閉症でということで開催をしておりますけども、こちらで、情緒障害、学習障害、注意欠陥多動性障害も指導対象として、通常学級での学びに困難さを感じているお子さん、児童に対して、さらに支えていきたいというふうに考えております。2点目は、巡回による指導でござ

ございます。通級指導担当者が、センターを拠点として、学校へ巡回するということを考えております。そのことによりまして、より指導を受けやすい環境を整備したいというふうに考えます。3点目ですが、研修や交流会の開催でございます。この通級指導を受ける児童の保護者の学習会や、また保護者同士、または子どもたちが交流する場を整備していきたいというふうに考えているところでございます。簡単ですが説明は以上です。

○友實市長：いかがでしょうか。ただいまの説明に対してご質問あるいはご意見ありましたらお願いします。

○山本委員：山本です。6ページの通室児童数推移のグラフを見させていただくと、言語の数字なんですけど、81まで増えたあと大分減ってきているんですね。自閉症を加えても59なんですけど。これは、本当はなるべく通常学級に行ってもらって、通級指導に通ってもらうのがいいんだけども、通級指導でなく、特別支援学級に入ってしまったという方が多くて減ってしまったのかなとちょっと思ったんですけど、そういう事情もありますでしょうか。

○森本学校教育課長：学校教育課森本です。減ってきた現状についてということですか。

○山本委員：そうですね。その原因が、本来は通常学級に行きながら通級指導教室に通っておれば一番いい教育が受けられるんだけども、そんなことするよりは、特別支援学級に入ってしまったそこで教育を受けたいという人が増えたから減ってきたのかなと思ったんですけど、そういうわけではないんでしょうか。

○森本学校教育課長：はい、学校教育課森本です。81名から約半減という状況でございますけれども、今、山本委員さんがおっしゃられたことが原因なのかどうかというところでは、はっきりとは分かりません。ただ、言語の通級ということですので、言語の通級の対象のお子さんというのが、国の方もこういうお子さんが対象だということが示されておりますので、そこに照らし合わせながら、就学指導していったっていうところで。なぜ減ってきたのかというところまでの原因との因果関係までは分かりません。ただ少しいろんな状況も変わってきておりました、今、言語と自閉症ということをやっておるんですけども、現在、通常学級におりながら、様々な状況で困難さ、私生活に困難さを感じている児童もいるというふうに聞いておりますので、できる限りそういうお子さんに支援をしていきたいということで、今回、障害種別を少し広げていながら、お子さんの支援をしていきたいということなんです。

○山本委員：インクルーシブということで、なるべく通常学級でという方向だと思うので、通常学級だけだと大変なお子さんも、こういう通級指導教室で指導した上で、なるべく戻ってもらうという方向に行くことは非常にいいことだと思うので、ぜひこの方針を頑張らせてやっていただければと思います。よろしくをお願いします。

○大崎委員：大崎です。この分母、子どもの対象は、ちょっとしか詳しく読んでいないんですけど、学童と書いてあるから小学生が対象なんかなとったりして見たんですけども。うちの長男なんかも、幼稚園のときに、言語の方で、はっきりしないかなというふうなことで、通級のほうで何回か通ったことがあるんですけども、その小学校へ入る以前の幼稚園児とか、それから小学校卒業した中学生に向けての何か取り組みみたいなものは、現在どんなものがあるって、将来的にどうなってくるのかなというふうなこと

がある程度分かれば、教えてやっていただけたらと思います。

○森本学校教育課長：はい。学校教育課の森本です。幼稚園、未就学段階であるとか、中学校での通級指導ということだと思うんですけど、現在は、赤磐市では、小学生、児童を対象とした言葉と自閉症というものです。今こちらで考えているところについても、小学生を対象ということでのもの。大崎委員がおっしゃられたように、未就学児であるとか、それから中学校で指導っていうのは、県内でもあるというふうに聞いておりますので、そのあたり今後の検討の中で検討してまいりたいとは思いますが、現時点では、小学生ということ考えております。

○大崎委員：ぜひ就学前とか中学生になっても手厚い指導ができるようにまたご検討お願いいたします。以上です。

○友實市長：はい、ありがとうございます。

○平松委員：平松です。今、西小のほうの自閉症の教室に通っている方が17名いらっしゃるんですけど、通うのには確か保護者の送迎という決まりだったと思うんですが、桜が丘給食センター跡地になって困る方がいらっしゃるのかどうか、今までどおり通えるのかどうかというのが分かっているかということと、言語の方は北小なので、隣接で、ほとんど距離も変わらないと思いますけど。北小の子どもさんは隣接ということで子どもさんだけでも通うことができるのかどうか、決まっているのであれば教えてください。

○森本学校教育課長：学校教育課森本です。通級教室に通う、通いってということだと思っておりますけれども、現在も北小、それから西小ともに、自校については、当然保護者の送迎なく、校内ですので子どもたちだけで通っています。他校通級といたしまして、他校から北小へとか、他校から西小へ通っているとかっていうお子さんは、確かにおっしゃるとおり保護者の送迎が必要なお子さんがかなり多いと。北小のほうで拠点ということになりまして、他校通級という方が当然出てきます。ただ、今日お示した資料の中で8ページだとかですけど、こちらの方で、例を示させていただいておりますが、今検討で考えているところでありますと、山陽西小学校につきましては、言葉の通級のみだったときも、週に1回巡回ということ、西小でも1日指導がありました。そういうふうな事情もありまして、西小の方には、今後も巡回による指導という形でいかせていただきたいと思います。それから、もう一つその横に〇〇小ということで、巡回による指導ということ、これはまだどこがとか、何校がとかは決まっていらないですけれども、やはり通級に通わせたいけどなかなか通わせにくいという話も聞いておりますので、巡回による指導も西小だけにとどまらず、増やしていきたいというふうに考えております。

○平松委員：各校へ巡回すると書いてあったので、とても期待しておりますし、その次に、また研修会と書いてあったので、先生方や保護者の皆さんが、学習し合える面で、このセンターが大いに利用できたらなと期待しております。よろしく申し上げます。

○友實市長：はい。ありがとうございます。遠藤委員、いかがでしょうか。

○遠藤委員：はい、遠藤です。不安を抱えていらっしゃる保護者の方、また問題を抱えている保護者、そして児童の皆さんには非常にこの試みは心強いことだというふうに思います。この指導内容が多岐にわたるように、言語障害、自閉症に加えて情緒、学習障害、注

意欠陥多動性障害などが増えることによって、それを担当する教諭であったり非常勤講師が、また巡回指導も含まれますので、さらに増える予定であるというふうに理解してよろしいでしょうか。

○森本学校教育課長：学校教育課森本です。指導充実させるための人的なところが非常に大切なところになると思います。この人的なのが、何人であるとか、どういう指導者がいいのかというようなことについては今後の検討ということになります。それからあと、県の方とも調整が必要な部分もありますので、今後支援を充実させるためにも人員配置についてはしっかり検討してまいりたいと思います。

○友實市長：よろしいですか。それでは、教育長。

○坪井教育長：はい。先ほど担当の方から説明がありました通級指導教室、新たなインクルーシブ教育支援センターという、これ仮称ではありますけども、令和8年度、いうことでございます。北小学校を拠点校としてということになりますけれども、巡回指導の方を充実してまいりたいと思っております。奇しくも令和8年度、今、赤磐市教育委員会の方針としては、赤坂地域において、3小学校を一つに再編するという方向で進めております。多くの子どもたちが様々な不安を抱えたり、それからしんどさを抱えたりして、赤坂小学校の方においても、統合することも、予想されます。このインクルーシブ教育支援センターの巡回指導を、赤坂における、学校の再編統合ともリンクさせながら進めていくことも、一つの施策として考えていきたいというふうには思っておりますので、ご承知おきいただけたらと思います。具体については、今森本のほうからもありましたが、人的な課題もありますので、そういったところもクリアしながら進めていければなというふうにも考えております。以上です。

○友實市長：他にご意見ご質問ありませんか。大丈夫ですかね。私の方からひとこと言わせてもらおうと、このインクルーシブ教育支援センターと各小学校との関係性、インクルーシブ教育と、この通級指導教室との関係、先ほど山本委員の方からも言われましたが、そこが一般の方に対しては、とても重要なんですよ。教育委員会はわかりきってるようなことですけども、一般の方にはなかなか馴染めない部分です。でも、これはとても重要なポイントで、拠点があって、巡回したり、相談を受けたり、そういったことで、もっと具体的に言うと、一般の通常教室に通いながら、スポットで相談したり、あるいは相談に来ていただいたり、そういったフォローをしながら、全員を取り残すことなく、教育をしていくんだと、次のステップ、中学なら中学、中学から高校、こういったところへ橋を渡していくということをよく説明していただきたいなと思います。大切なことなので、充実した説明をできるよう、整えていただければと思います。事務局へのお願いです。はい。それでは、次に移りたいと思います。次の説明を事務局お願いします。

○原田保健福祉部参与兼社会福祉課長：はい、社会福祉課原田です。資料の9ページをお願いいたします。今年度で3回目の実施となります。愛称「春15（はるいちご）の会」について、ご紹介させていただきます。支援の必要な児童生徒へ県内の高校や高等支援学校の特別支援教育を紹介する動画配信を、すでに8月10日から始まっております。市のホームページの、YouTubeのリンクがあるんですけど、そこからご覧になることができますので、お時間ありましたらご覧いただけたらと思っております。参加校につ

きましては、今資料でご覧のとおりでございます。裏面の10ページをご覧ください。今回の新たな取り組みとしまして、コロナ禍で断念しておりました、対面による相談会を、8月26日に予定しておりました、一部の学校にはなりませんけれども、予定どおり開催させていただくことになっております。その個別相談会の前段ということで、中高の先生方による座談会も開催されますので、こちらにつきましても、お時間ございましたら、ぜひお立ち寄りください。以上簡単ではございますけど、春15の会のご案内でした。

○友實市長：はい。説明がありました。このことについて、質問、ご意見がありましたらお願いします。いかがでしょうか。

○山本委員：はい、質問ですけど、YouTubeの発信ですけど、指定された8月10日と9月11日に流して、あとは。

○原田保健福祉部参与兼社会福祉課長：一応期間限定ということで配信をさせていただくということ。

○友實市長：8月10日から9月11日までは、いつもでも見えるよということです。今、現時点も見えると。時間を選ばず。

○山本委員：分かりました。ありがとうございます。

○平松委員：はい、平松です。今まで勉強不足で、この春15の会のことを全然知らなかったのですが、今までもしていたのか、また、どういう活動をしているのか簡単に教えていただければと思います。

○原田保健福祉部参与兼社会福祉課長：社会福祉課原田です。今回は3回目になりまして、3年前に、有志の方を中心に実行委員会を立ち上げまして、実行委員会方式で、情報がなかなか入らない保護者の方、当事者の方に、情報を届けて、中学卒業後の進路について考えるきっかけづくりですとか、あと、実際に各学校で進路説明会とか、ホームページとか載っていますので、説明つなぐためのステップとして、この場を利用させていただきたいということで、活動をしております。活動内容としましてはこの春15の会という、この情報提供するためのことを、これに特化してやっております。実行委員会のメンバーは様々な方で構成されておりまして、赤磐市の障害者自立支援協議会の方ですとか、環太平洋大学の教授の方、市内の障害者の事業所の方、市のリンクステーションのセンター長ですとか、赤坂中学校ですとか、瀬戸内市の方の自立支援協議会の方、備前市の小学校の先生ですとか、いろんな方に参集いただきまして、実行委員会を構成しまして、事務局が、赤磐市の障害者相談支援センターを中心ということでやっております。以上です。

○友實市長：よろしいでしょうか。ほかに質問、ご意見ありましたらお願いします。よろしいですか。それでは、私のほうから。この春15の会、とても有意義な会です。私も、これに参加させていただいて、実態といいますか、現実にそういった子どもたちを支えている方々の貴重な意見を聞かせてもらえるということで、私もその会について、とても大事に考えているところです。その中で、パネリストの方々はどうこういうんじゃないかもしれませんが、やはり、情報交換や、情報共有の貴重な場だと思います。で、今、原田さんの方から案内をした案内先をちょっとご説明いただいたんですけど、もっと広範囲に、もっと参加者を募ってはどうかと思いますので、単純に、例えば広報連絡

したとか、そんなじゃなく、ホームページに出したよとかじゃなく、各市内の小学校中学校も、チャンネルを利用して、広く呼びかけたりしてはどうでしょうかね。もうすごく有意義な会なので、みんなの理解を深める、あるいはみんなから、思いを集約していく。そういう場に、十分なってますので。そういうことをするためにも、知らなかったという人が、なるべく少なくなるように、していただければなあと思うんです。いかがでしょう。

○原田保健福祉部参与兼社会福祉課長：現状では各学校等を通じて、ご案内させていただいておりますけれども、より広範囲に周知する方法がないか、実行委員会とも協議してまいります。

○友實市長：はい。ぜひお願いします。その他ありませんか。よろしい。

○和田子育て支援課長：子育て支援課です。資料がないのですが、一件お知らせをさせていただきます。昨年末頃にマスコミでも大きく取り上げられていましたので、皆さまのご記憶にもおありかと思うのですが、保育園やこども園におけるオムツの処理についてです。使用済みのオムツを保育園やこども園のほうで処理するというのを国のほうも推奨しますというようなことが出されています。赤磐市としましても、この取り組みを推進していくということで、ここから予定になりますが、赤磐市議会の9月定例会に補正予算を計上させていただきまして、私立の保育園さん、こども園さんに対するオムツを自園で処理していただくということに関して補助金というのを計上いたしまして、この取り組みを進めようということを考えております。もちろん公立のほうもあわせて取組みを考えております。この場をお借りしてお知らせをさせていただきました。ありがとうございました。

○友實市長：はい。このことについて、ご質問とかご意見ありましたらお願いします。

○山本委員：幼稚園に行く子どもは3歳からなので、大体オムツははずれていると思うんですけど、たまに、なかなか難しい人、オムツをしている人もいると思うんで、幼稚園でも、幼稚園のほうで処理をしていただいたらありがたいかなと思いました。

○友實市長：はい。これは教育委員会、どうでしょう。

○森本学校教育課長：はい。学校教育課森本です。幼稚園の方にもオムツの状況を少し聞いたことがあるんですけど、だいたい3歳のお子さんでやっぱり入園した当初はオムツをしてこられる。で、夏頃までには、ほとんどの子がオムツがとれるんだという話でした。ただまあ、おっしゃるとおり、入園してきた当初はオムツをしているということで。そのあたり、少し状況を把握しながら、検討してまいります。

○平松委員：私の子どもたちも保育園に通っていた時、オムツをそれぞれ持って帰るような状況だったので、このオムツの処理というのは保護者としてはとても助かるかなというのがあります。しかしその反面で、子どもたちが、おしっこが何回出たとか、うんちが出てるとか、そういう、大切な体からのサインが、オムツを持って帰ってくることでわかっていたこともあるので、保育園で処理してくださった先生方には、面倒かもしれませんが、おしっこの回数が少ないとか、お通じが出てないとか、そういう、保護者に対する伝達とかいうのが大変になるかと思いますが、細かいことですが、そういうことを伝えて、子どもたちの健康状態が保護者が把握できるようにしていただけたらありがたいなと思いますので、このオムツの処理が始まったら、ぜひやっていただ

きたいなと思います。

○和田子育て支援課長：はい、子育て支援課和田です。ありがとうございます。これまで自園処理せずにお持ち帰りいただいていた大きな理由として、お子さんの健康状態を把握していただくということがありました。公立の保育園の園長会なんかでも度々この話をしているのですが、今後どのように、回数もそうですし、うんちの状態など、そういうことをお伝えしていくか、そういうことをしっかり考えた上で、保護者の方にもお伝えして、それからスタートさせていくということにしております。私立の皆さんにもその旨しっかりお伝えして、保護者の方がお子さんの健康状態を把握できるように、取り組みを進めていきたいと思います。

○坪井教育長：今、保健福祉の方からお話がありましたけれども、おむつの方の関係なんですけど、ちょっと気になったのが、本当に少数派なのかもしれないんですけど、大切にしなきゃいけないのが、布オムツの子がいるんじゃないかと思うんですよ。いろんな事情で。そういった子への配慮もきちとしなきゃいけないのかな。やっぱりいろんな体調とかね、いろんな、保護者の方の考え方とか、そんな方へもやっぱり配慮しながら、一人一人を、そういうところもやっぱり少し気にしておいていただけたらな。幼稚園とかは紙パンツの子が多いみたいですけども、保育園によっては、そういった考え方の保護者の方もいらっしゃる。気にしておいてください。それだけです。

○友實市長：布オムツを洗濯して返すことはできない。ビニール袋に入れて、家でどうぞという返し方しかできないのでは。

○和田子育て支援課長：さっと洗って、家で洗いやすいような状態で返してくださるのでは。私が聞く限りはほぼ紙オムツですが、布オムツの方もいらっしゃると思います。そういう方は、これまでどおり保育園で配慮していただくということはあわせてお伝えしていきます。

○坪井教育長：よろしくをお願いします。

○友實市長：よろしいですね。ほかにありませんか。よろしいですか。それでは、予定していた議題がすべて終わりました。まあ、この際ですから、その他の項として、委員の方から何かありましたら、お願いいたします。

○山本委員：山本です。国際交流というのを、頑張ってやっていただけたらいいなということを、前々から総合教育会議でお伝えしているんですけど。オリンピックのホストタウンだった関係で、カナダとニュージーランドのほうは、割と次の企画というか、国際交流試合をするらしいですけど、まあ、そういうのも大事だと思うんですけど、以前市長さんが音頭を取ってアムダと連携して、中学生とか高校生を派遣するという事業をぜひ、どっかで復活していただきたいなと常々思っておりまして、そのへん何かありましたら聞かせていただけたら。

○友實市長：はい。これは事務局より私が答えたほうがいいですね。はい。現状から先に言うと、先ほど委員の方からご案内のあった、カナダ、あるいはニュージーランドの、今は選手の方に赤磐に来ていただいて、交流をするという事業を展開してます。今度、カナダの代表選手、チームで岡山に来て、熊山で全日本と親善試合をしたり、それから、選手に学校へ訪れていただいて、交流していただいたり、それから授業としては、IPU環太平洋大学と一緒に、グローバルキャンプと称して、これは、海外へ出かけるわけ

じゃないんですが、キャンプをして寝泊りしてもらって、赤磐市の中学生、そこで過ごすのに英語を主体に、コミュニケーションを図っていくという事業をやっています。現状では、コロナの関係、あるいは言われた、アムダと一緒に、市内の中学生、あるいは県内の高校生と一緒にスリランカの方へ滞在して、スリランカの同じ年代の子どもたちと交流するということでやらせていただきましたが、これも、そののちに、スリランカの、ご存知のように、情勢が不安定になりまして、そののちはコロナということで、海外へっていうことはなくなって、出かけていくという事業は今できておりません。でも、私の基本的な考えは、他の自治体のように、訪問団を編成して海外の主要都市で交流するというようなやり方は、あまり私の感性に響いてきません。私はそのスリランカで行ったように、日本とは全然違う環境、もしかしたら、少し過酷な環境、そういったところでも、一生懸命暮らして一生懸命学んでいるよという姿を、まあ、現地を見て、交流して、一緒に何日間か生活をして、生きる力っていうものを身に付けていただくような機会に、また、グローバルな視点、それも、アメリカとかヨーロッパの国々だったら、観光旅行に近い感覚になってしまう。そうじゃなくって、ちょっといわゆる開発途上国、こういったところに行って、そこに暮らす子どもたちが、過酷な環境の中でも、すごく楽しく暮らしています。そして交流を求めています。そういったところへ赤磐の子どもに行っていただいて、そこで交流してもらおうと。で、もっともっと、テレビやラジオでは報道されないような、そういう世界の国々の生活をね、見ていただく、経験していただく。こういったことができたらいいなというのが、私の願いというか思いです。これがアムダの交流事業は、私が思っていることをほとんど満足しています。だから、また復活ができたらというふうに思っています。教育委員や市民の皆さんのご理解ご協力というのにも必要になります。ともすれば、とんでもないと言う人も出てくるかもしれませんが、でも、非常に大事なところだなと思います。私自身、若いころ、国際協力事業団いわゆる JICA で、専門家として、開発途上国に短期間ですけど、派遣をさせていただいて、そこで働きました。やはり、さっき私が言ったように、いろんなどころで一生懸命みんな生活しています。そういったところを、ほんの微力ではありますがありますけれども、支えるというような経験して、そういう思いを持ったもんで、それが私の原点になります。ですからそういったことを子どもたちに、経験してもらったら、きっとその子どもたちは生涯忘れないと。そういう交流、海外との交流事業ができたらいいなと思います。いかがでしょうか。

○山本委員：はい。私も市長さんの考え方に大賛成です。発展途上国に行って、そこでどんな生活をしているか見ていただいたうえで、今、SDGsでだれ一人取り残さない世界を実現するという取り組みがありますが、そういうことに目を向けてくれる子どもが増えてくれればありがたいなど。ひいては、今ロシアとウクライナの戦争とか、中国と台湾のこととかいろいろあるんですけど、そういうことを防いでいくためにも世界中で取り残される人をなくそうという機運を盛り上げれば、戦争とかも少なくなってくるのではないかなと思っているので、ぜひ赤磐市としてそういうことに取り組んでいただければ。私も微力ながら協力させていただきますので、よろしくをお願いします。

○友實市長：ありがとうございます。ぜひ実現させるよう頑張ります。ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。それでは、その他の項も終了させていただきます。これをもちまし

て、令和5年度の第2回赤磐市総合教育会議を閉会といたします。ご協力ありがとうございました。お疲れさまでございます。

○一同：お疲れさまでした。ありがとうございました。